

平成 21 年 3 月 20 日

ミュージカルより公共事業を 対馬市議会議員 四番 小 宮 教 義

今回のミュージカル事業は、国の二次補正予算中、地域活性化、生活対策臨時交付金約八億三千万円の一部を当てるものであり、全額国のお金である。本補正予算は地方自治体始まって以来の処置と思える。何故か、それは百年に一回とも言われる未曾有の経済危機の中、短期的であるが地方に活力を与える為の予算であり、対象事業は主に市単独事業（市が事業費の全額を支出する事業）であり事業期間は、昨年十月三十一日から今年の三月三十一日間の事業と規定しており、他に基金積立金（対馬市は交付金の三割以下の基準の二億円）があるが、これも年度内に取崩し地域活性化に使用する様制限されている。その確たる国の予算付けの中、当市の補正予算のミュージカルは、ジェームス三木が脚本し、本土の劇団が公演すると言う、まさに未曾有の予算付けである。今回の一千万円は、ジェームス三木の脚本代に金額を費やすものであり、今後劇団への多額の費用負担の発生も予想される長期的事業である。国の短期的事業の目的から脱線しているとも言えよう。対馬人による脚本ならまだしも、島外人では、尚更島の活性化に役立つまい。対馬の経済が安定してからでもよいではないか。本土まで『国交回復物語ミュージカル』を観に行く余裕と時間は今の対馬人にはあるまい。失業者が溢れる中、明日の生活も分からない状況下であるミュージカルはあるまい。

今対馬には、僅かな仕事でも非常に大事な時である。一千万円もあれば、雇用創設に市独自で取組む事も出来る。又二百五十万円の公共事業なら四件も出来、疲弊した建設業界は助かる。国の予算の目的はその為にある。残金の基金積立金二億円は、全てインフラ整備に公共事業に充用すべきである。